

廃棄物最終処分場候補地 概況調査結果概要

平成19年8月

山 梨 県

1. 概況調査について

1) 概況調査の目的

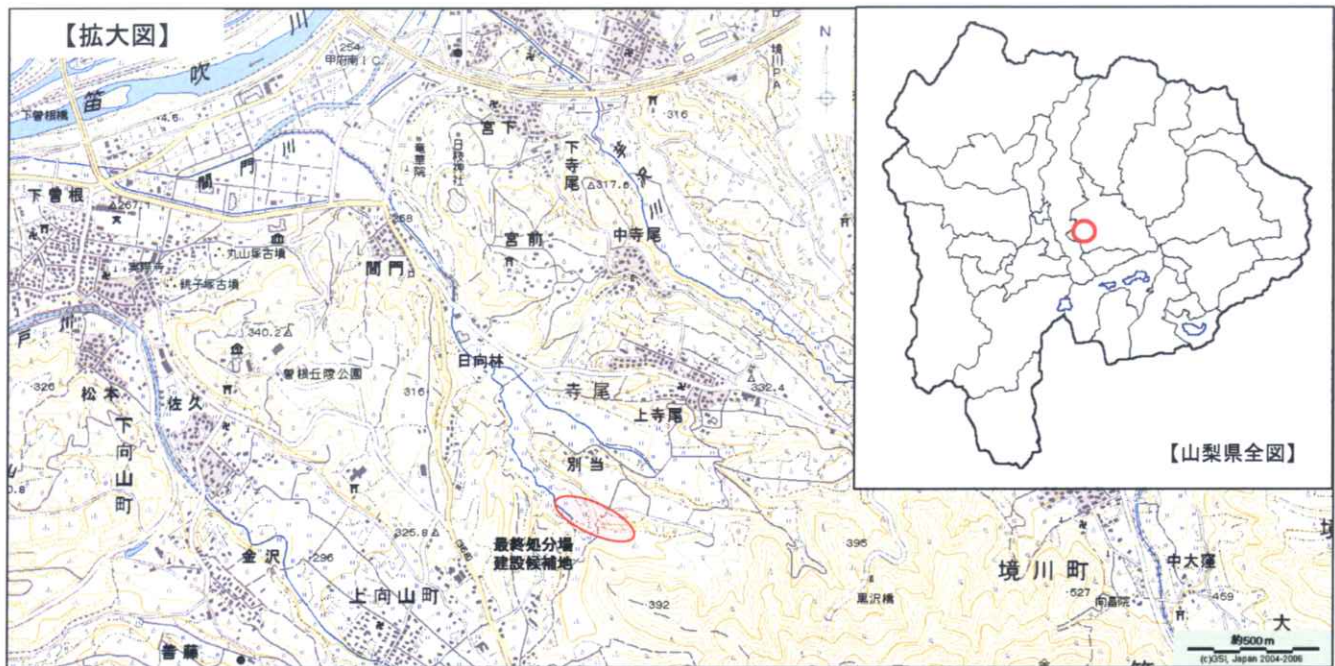
概況調査では猛禽類等の希少野生動植物の生息生育、活断層等の地盤地質状況、埋蔵文化財の分布等について文献調査や現地調査を行い、最終処分場候補地としての適性を見極めるとともに、併せて、処分場の概略検討を行い埋立地の構造・埋立可能容量・概算工事費を把握し最終処分場建設に向けた基礎資料を得ることを目的として実施する。

2) 最終処分場候補地の適性確認事項

処分場候補地としての適性は、基礎事項・地質事項・環境事項について文献調査、現地調査を行い、次の事項を確認することにより判断するものとする。

基礎調査	地質調査	環境調査
① 搬入ルート及び沿線への影響	① 候補地の地形	① 候補地の植物相・動物相
② 浸出水処理水の放流先の確保	② 候補地周辺の活断層	② 猛禽類の存在
③ 土地利用に関する制限の除外	③ 候補地の地質	③ 重要植物種の比較的大きな群落の存在
④ 蟹沢川の付け替えの可能性	④ 地盤の水理性状	④ 重要動物種の比較的大きな生息エリアの存在
⑤ 候補地周辺の民家への環境影響		
⑥ 埋蔵文化財包蔵地の影響		

3) 最終処分場候補地の位置及び周辺状況

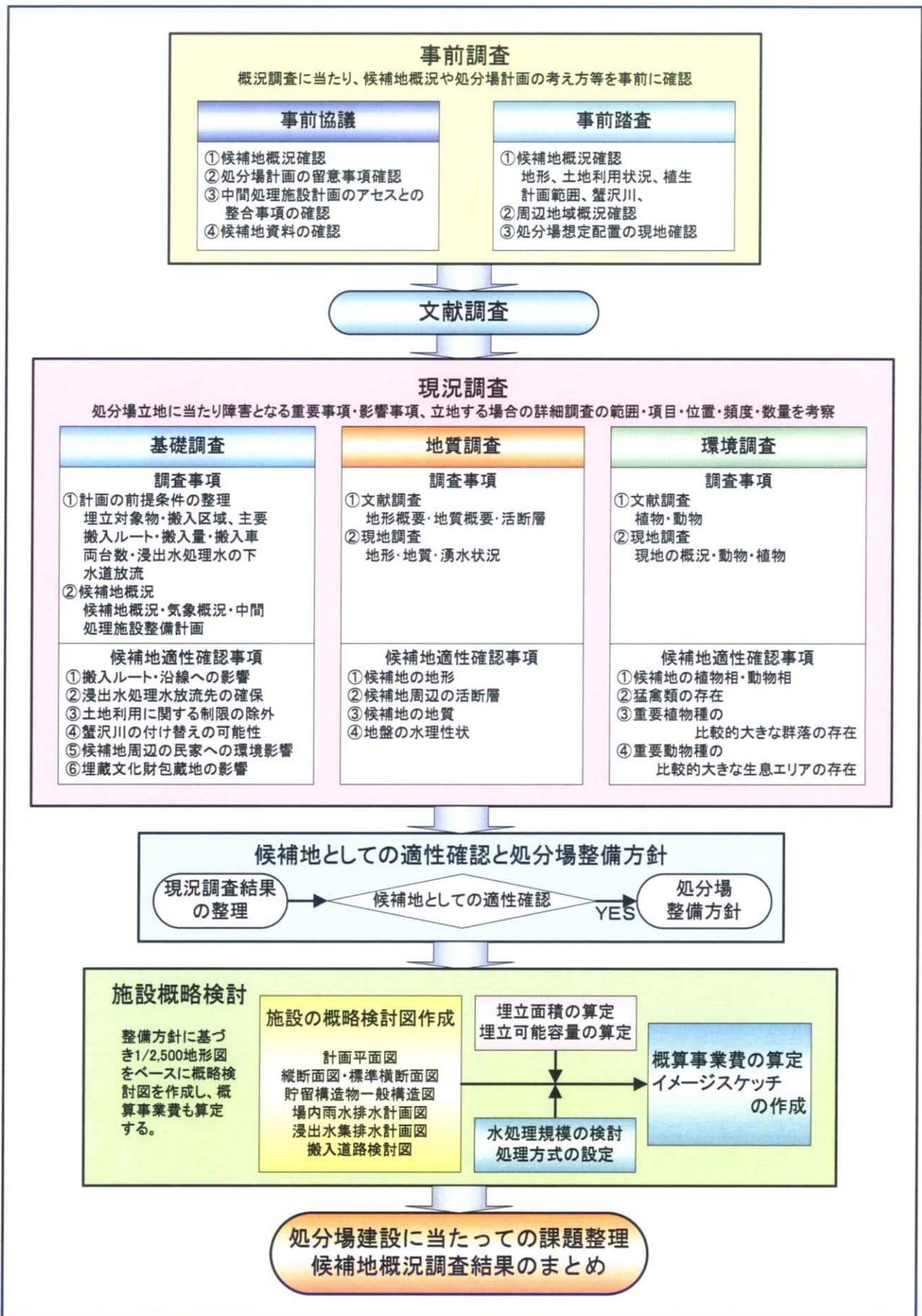


位置図



航空写真

4) 最終処分場候補地概況調査フロー



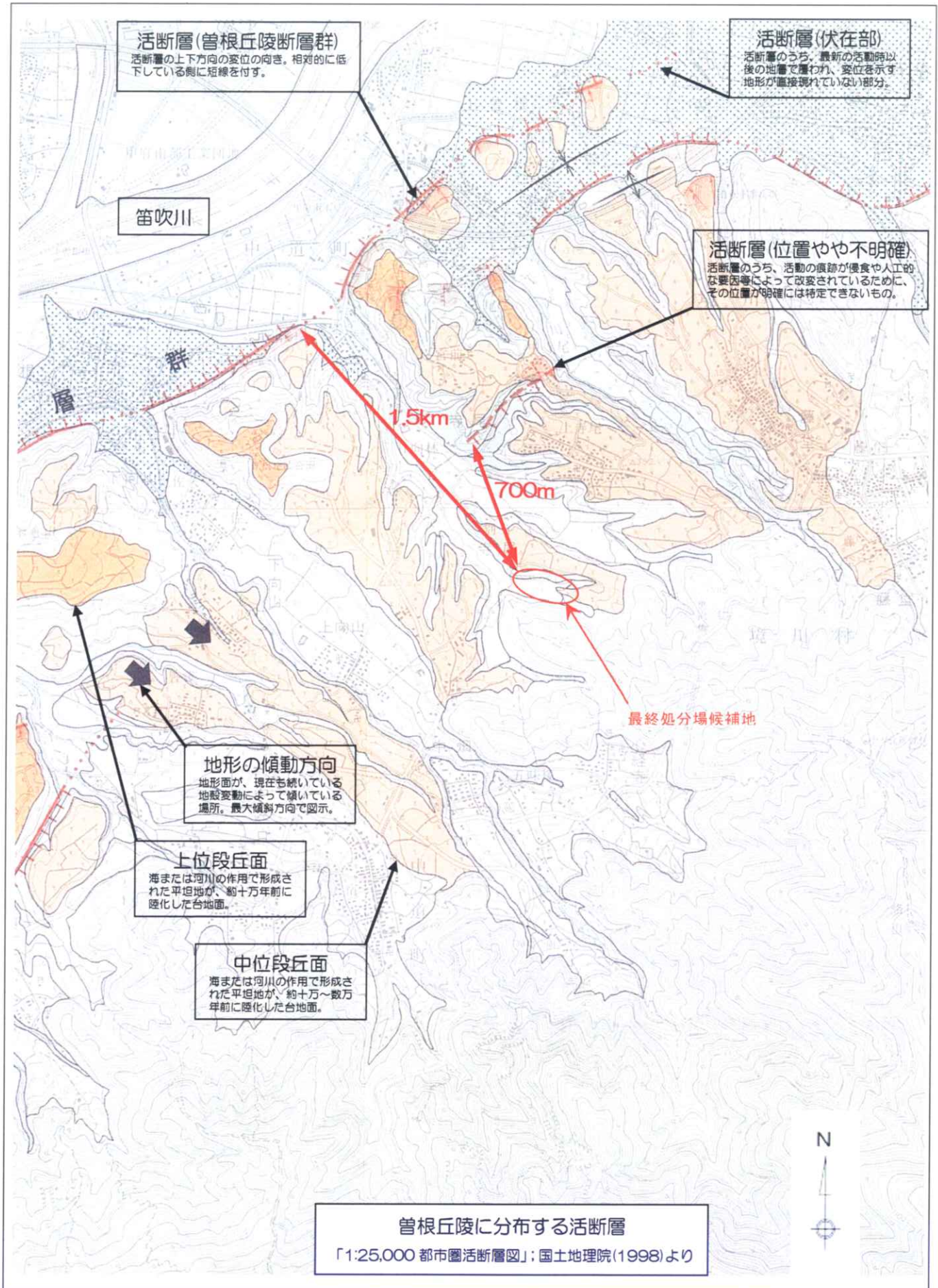
2. 最終処分場候補地としての概況調査結果の概要

1) 基礎調査

区分	適性確認事項	概況調査結果概要	評価
基礎調査	① 搬入ルート及び沿線への影響	<ul style="list-style-type: none"> 搬入ルートは、国道 358 号、県道鷲宿上曾根線などが考えられる。 周辺道路の交通量は、約 3 千台から 1 万台である。 処分場の搬入車両台数は、埋立期間や搬入量から試算すると概ね往復で 60 台程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入ルートとして想定される直近の一般国道 358 号は、既に交通量が 1 万台を超えており、周辺沿線への影響は少ない。 処分場を整備する場合の障害にはならないものと判断できる。
	② 浸出水処理水の放流先の確保	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地周辺には、公共下水道や峡東流域下水道が整備されている。 下水道管渠は、VUφ200~HPφ1800 であり、現状十分な余裕率が確保されている。 浸出水処理施設の概算規模を試算すると概ね 165~275(m³/日)で、浸出水放流量は 0.0019~0.0032(m³/s) である。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道への放流は流下能力内であり、下水道放流水質基準を満たせば可能である。
	③ 土地利用に関する制限の除外	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地内の一部は、農業振興地域や森林法に基づく森林地域に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興地域の農用地区域の除外は、農振法に基づく手続きを行うことで可能である。 森林法の林地開発は、法に基づく手続きを行うことで可能である。 いずれも、処分場を整備する場合の障害にはならないものと判断できる。
	④ 蟹沢川の付け替えの可能性	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地内に、一級河川の蟹沢川が流れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川管理者以外の者であっても、河川管理者の許可を受けて河川工事を行うことができる。(河川法第 20 条) 河川法に基づく手続きにより、蟹沢川の付け替えは可能である。
	⑤ 候補地周辺の民家への環境影響	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地から北西方向 200 m 程先に 7 戸の民家がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地から民家までは、台地を隔て 200m 程度離れていることから、建設・運営に伴う騒音等の民家への環境影響は少ない。 処分場を整備する場合の障害にはならないものと判断できる。
	⑥ 埋蔵文化財包蔵地の影響	<ul style="list-style-type: none"> 処分場候補地内には埋蔵文化財包蔵地は存在しない。 周辺には、3 箇所の埋蔵文化財包蔵地が存在し、現在、笛吹市教育委員会で試掘調査を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、埋蔵文化財包蔵地が存在した場合、文化財保護法に基づく適切な手続きを行うことで対応可能である。 現段階では、処分場を整備する場合の障害にはならないものと判断できる。

2) 地質調査

区分	適性確認事項	概況調査結果概要	評価
地質調査	① 候補地の地形	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処分場候補地は丘陵を開析する間門川の上流部に位置し、基盤岩山地斜面から半島状に伸びる狭長な丘陵地及び河床低地である。 ・ 南北両側の山腹勾配は概ね30°前後で比較的急傾斜となっているが、変位や変形を示す地形的兆候はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流の源流域では古い崩壊地や溪岸崩壊が認められるが、下流域への影響を抑止する造成形状や必要に応じた擁壁整備を行うことで対応可能である。 ・ 現段階では処分場を整備する上で支障となる地形的問題点はないと判断できる。
	② 候補地周辺の活断層	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献資料では、処分場候補地内に活断層が存在する記述はない。 ・ 処分場候補地周辺には、甲府盆地南縁と曽根丘陵及び御坂山地北麓の地形境界に沿って延びる「曽根丘陵断層群(帯)」があり、複数の分岐・並走する断層から構成されている。 ・ 処分場候補地から確かな活断層までは約1.5km、不確かな活断層までは約700m離れており、候補地方向への連続性は示していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処分場候補地付近の地形面は10万年以前に形成されたものであるが、河床の沖積面を含め変位地形(傾動)は認められない。 ・ 処分場候補地を通るリニアメントは認められない。 ・ 処分場候補地付近では南北方向のリニアメントが多く認められるが、変位の累積が想定される南北方向の地形変位がなく、同方向の断層変位は一過性のものと推定され、今後の活動が想定される活断層ではないと判断される。 ・ 文献調査及び地形判読調査の結果から、処分場を整備する上で支障となる活断層は分布していないと判断できる。
	③ 候補地の地質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処分場候補地の基盤岩は堅硬な花崗閃緑岩であるが、表層部は、風化によりマサ土化し土砂状となっている。 ・ 締りの悪いローム層や河床低地、沢部に分布する現河床堆積物は軟弱である。 ・ 礫層は半固結状態であるが、新鮮部はよく締まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地層ごとの強度の把握や変形性などの地盤工学的特性の把握、構造物を設置する場合の適切な基礎の選択、切土法面の安定勾配を確保することで対応可能である。 ・ 現段階では、処分場を整備する上で支障となる地質的問題点はないと判断できる。
	④ 地盤の水理性状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処分場候補地内に複数の湧水箇所を確認した。 ・ 処分場候補地を構成する礫層が透水層として機能していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 底部・側面遮水工の下側への地下水集排水管の設置や必要に応じた横ボーリング等の排水工を行うことで対応可能である。 ・ 現段階では処分場を整備する上で支障となる地下水の水理的問題点はないと判断できる。

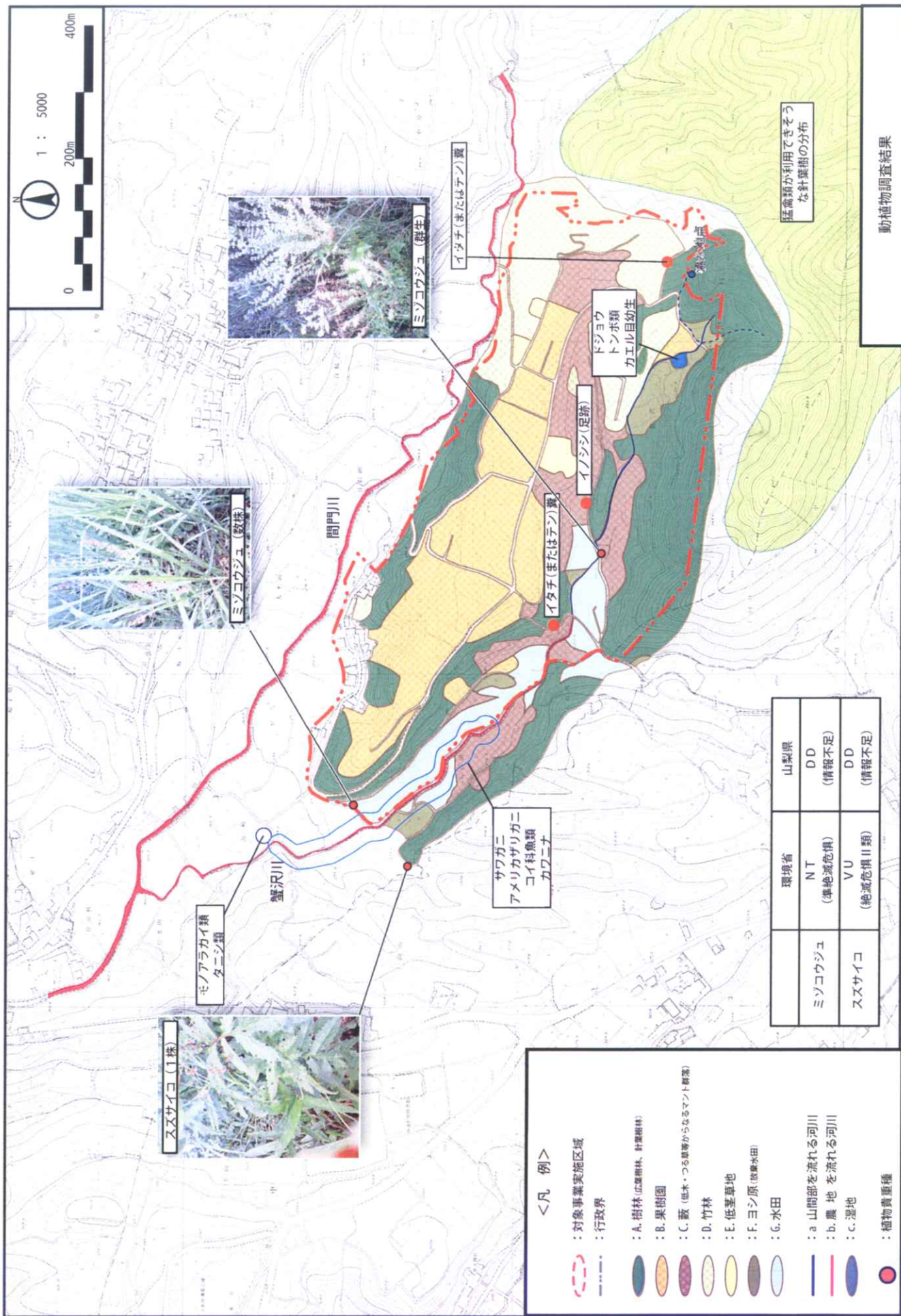


3) 環境調査

区分	適性確認事項	概況調査結果概要	評価
環境調査	①候補地の植物相・動物相	<ul style="list-style-type: none"> ・処分場候補地周辺の植物相調査では、78科 198種の植物種を確認した。 ・処分場候補地周辺の動物相調査では、イノシシやイタチのフィールドサインの他、水環境でカニ類、貝類、魚類、昆虫類、両生類を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物種の多くは現地の里山環境を反映して、人里周辺や畑地、水田等に普通に見られる種が大半を占めた。 ・動物種も普通に見られる種であった。
	②猛禽類の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査段階では、処分場候補地内で猛禽類の存在は確認できなかった。 ・処分場候補地周辺は、オオタカ等の猛禽類の営巣に適した環境が広がっており、周辺での営巣の可能性も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査を実施し、調査結果を反映させた保全対策の検討等を行いながら、事業を進めていくことが重要である。 ・保全対策としては、猛禽類の繁殖ステージに合わせた施工計画の設定や低騒音、低振動型の建設機械の使用、目隠しの設置等を行うことが考えられる。
	③重要植物種の比較的大きな群落の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・重要植物種の比較的大きな群落は確認できなかった。 ・処分場候補地内外で、ミソコウジュ、スズサイコ（重要種）の2種を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全対策としては、周囲の類似する里山環境や、同様の環境整備地へ移植する等を講じることで対応可能である。
	④重要動物種の比較的大きな生息エリアの存在	<ul style="list-style-type: none"> ・重要動物種の比較的大きな生息エリアは確認できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた保全対策を講じる必要がある。

【処分場候補地内外で確認された植物の重要種】

<p>ミソコウジュ</p> 	<p>環境省 RDB：準絶滅危惧、山梨県 RDB：情報不足</p> <p>【形態と生態】越年草。冬には大形ロゼット状の根生葉がある。茎は直立して高さ 30～70cm、方形で分枝し、下向きの軟毛がある。根生葉は花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり葉身は長さ 3～6cm、幅 1～2cm でしわがあり、両面に軟毛がある。枝先に花穂を出し、淡紫色の小さい唇形花を多数付ける。花期は 5～6 月。</p> <p>【生育環境】湿った草地や水田の畦。</p> <p>【生育地の現状】花期が草刈の時期と合致し、花を見ずに過ぎてしまう。かつては休耕地の畦に群生していたが、宅地造成により次の年には全く見られなくなって現在に至っている所もある。</p> <p>【生存への脅威】湿地開発、土地造成、除草剤散布。</p> <p>【特記事項】和名は溝などの湿地に生えるコウジュの仲間という意味で名付けられた。冬型一年草であるため生育する場所が一定せず、今年あった群生地は翌年にはなくなったり、突然新たな場所に群生したりすることがある。</p>
<p>スズサイコ</p> 	<p>環境省 RDB：絶滅危惧Ⅱ類、山梨県 RDB：情報不足</p> <p>【形態と生態】高さ 40～100cm ほどの多年草で、茎は細く直立する。葉は対生し、長披針形～線状長楕円形で長さ 6～12cm、幅 4～15mm。茎の先や上部の葉腋から花軸を出し、集散状に小さな淡黄褐色の花をつける。花期は 6～8 月で早朝に開き、日が当たると閉じる性質がある。果実は細長い披針形の袋果。</p> <p>【生育環境】日当たりのよいやや乾いた草地。</p> <p>【生育地の現状】平地に多いが高地にも生育している。本種の生育地となっている人里の草地は、管理放棄などにより減少している。</p> <p>【生存への脅威】草刈されて植生高が低い場所に目立って生育するなど、人の管理に適応した成育のサイクルをもっていると考えられ、山や草地の管理がなされなくなるにつれて姿を消していくとも考えられる。管理放棄、草地開発、土地造成。</p> <p>【特記事項】和名は鈴柴胡で、全体がセリ科のミシマサイコに似て、花のつぼみが丸く鈴を思わせる。</p>



<凡 例>

- : 対象事業実施区域
- : 行政界
- : A. 樹林 (広葉樹林, 針葉樹林)
- : B. 果樹園
- : C. 藪 (低木・つる草等からなるマント群落)
- : D. 竹林
- : E. 低草草地
- : F. ヨシ原 (稲藪水田)
- : G. 水田
- : a. 山間部を流れる河川
- : b. 農地を流れる河川
- : c. 湿地
- : 植物貴重種

	環境省	山梨県
ミソコウジユ	NT (準絶滅危惧)	DD (情報不足)
スズサイコ	VU (絶滅危惧II類)	DD (情報不足)

動植物調査結果

猛禽類が利用できそ
うな針葉樹の分布

3. 最終処分場候補地としての適性確認

今回の概況調査では、当該候補地を最終処分場として整備する場合において、直ちに障害となる重要事項は確認できなかったことから、現段階では支障ないと判断できる。

4. 施設概略検討

1) 処分場整備の基本方針

- ① 処分場の最も重要な機能である「貯留機能」、「遮水機能」、「処理機能」を安全かつ安定的に確保できる構造とする。
- ② 継続的・安定的な最終処分先の確保するためには、所定の埋立容量が望ましいが、施工性安全性には十分配慮する。
- ③ 造成計画や施設計画は、施設の稼働も含め当該候補地及び周辺の豊かな自然環境・里地環境の保全に配慮する。

2) 処分場概要

施設	管理型廃棄物最終処分場
所在地	山梨県笛吹市境川町上寺尾区内
処分場敷地面積	約 12ha
埋立面積	約 5ha
埋立容量	約 600,000m ³
埋立高	約 20m
埋立期間	15年以上
埋立品目	○産業廃棄物：14品目 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、コンクリートくず、 ガラス・陶磁器くず、紙くず、木くず、繊維くず、鋳さい、動植物残さ、 汚泥、燃え殻、ばいじん、その他コンクリート固化物 等 ○一般廃棄物：3品目 焼却灰、飛灰、不燃物残さ
貯留構造物	盛土堰堤方式
遮水工	表面二重遮水シート・ベントナイト混合土・漏水検知システム
浸出水処理施設	施設規模：約 200m ³ /日、放流：下水道放流
概算工事費想定額	約 75～90億円

